

この2学期です、子どもたちと楽しい学びを作りたい。泉北夏季教研 山口妙子さん

やっぱり授業でしょ！～授業づくりはクラスづくり～



研究授業はすすんで引き受けよう

秋は研究授業のシーズンです。研究授業はすすんで引き受けましょう。教師の積極的な姿勢は子どもたちにもいい影響をあたえます。教師の意欲と子どもたちの意欲が響き合い日常の授業も楽しくなります。

お盆をすぎ朝夕はずいぶん涼しさを感じるようになりました。高石市の小中学校や、和泉市の中学校の三年生などではもうすでに2学期の授業が始まっていますが、八月最後の日曜日である三〇日午後一時から、和泉コミュニティセンターにて、「泉北夏季教研」が行われました。

今年の泉北教研は、元東大阪市小学校教員で、現在大阪教育大学や泉州看護専門学校で非常勤講師をしておられる、山口妙子先生に「やっぱり授業でしょ！～授業づくりはクラスづくり～」というテーマで、お話をお聞きしました。今までの多くの経験をもとに、生き生きとした授業づくり、クラスづくりのお話をしてくださいました。

授業づくりの三つのポイント

一つ目は「教材研究」です。教材研究を本格的にやると、本当のおもしろさがあります。指導書やネットに頼っていても教材の本当の理解はできません。そして教材研究は集団でやる方がしつかりとできます。

次に「子ども理解」です。学習の主体は子どもたちです。子どもたちの認識や実態に即して、教材や教具を準備します。

最後のポイントは「発問づくり」です。発問は授業の命です。教材に即した発問を考えることによって、授業は見違えるようになります。

授業参観を大事にしよう

山口さんは、参観のために「懇談会のために」といったレジメを作って、保護者に渡していたそうです。そのことで保護者が授業や懇談に関心を持ち、先生をめざすものを理解し、そのことで保護者とながっていったのだと思います。

授業をどう構想するか

授業づくりの段階では十分に教材研究し、授業の細部にわたって子どもの反応を予想して授業を考えるのですが、実際の授業をする時には指導案に縛られてはいけません。思った意見が出ないからと「ほかに？」と聞いて自分の読みに子どもを引き寄せるのではなく、授業を子どもたちといっしょに作ることを最優先しましょう。

授業づくりは

クラスづくり

授業をやっていれば、自然にクラスづくりができる



わけではありません。逆もまた同じです。授業づくりには、学習集団と学級集団の区別と関連を理解しながら授業づくりとクラスづくりのそれぞれに取り組みることが必要です。目の前の子どもたちにどのような力をつけさせたいのか、しっかりと意識して取り組みを進めましょう。

感想から

「授業の命は発問」という言葉は重いなあと感じます。子どもたちの声を聞いて授業をすすめることと、発問で課題の本質に子どもを近づけていくことと、バランスよくすることが大事なんだなあと改めて思いました。「ほかに？」をこれからは私も禁句にしていこうと思えました。